

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

佐賀市大和町大字川上927番地 佐賀県教育センター 中研修室棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

5/22 総会
会長あいさつ

第57回佐賀県人権・同和教育研究協議会 総会

”誰もが生まれてきてよかったと思える社会の実現を“

「私たち自身の行動が問われる」 会長 松本 定

第57回佐賀県人権・同和教育研究協議会総会並びに研修会は、5月22日(金)に開催いたしました。県内の社会教育、学校教育等関係者360人が福富ゆうあい館に一堂に会しました。

【松本 定 会長 あいさつ】

2026年度第57回佐賀県人権教育研究会総会並びに研修会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本日はご来賓として、佐賀県教育委員会教育長 甲斐直美様にご出席いただきました。ご多忙の中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃より同和教育をはじめとする様々な人権問題の解決に向け、人権・同和教育の推進にご尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さらに、本日、県内各地より多数ご参加いただきました皆様にも心より感謝申し上げます。皆様には日頃より、行政・教育・保育の各現場において、それ



ぞれの立場から差別の解消と人権尊重の社会の実現に向けてご尽力いただいておりますことに、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、二十一世紀は「人権の世紀」と期待されてから四半世紀が経過しました。

しかしながら、世界では紛争や戦争が続き、多くの命が脅かされる厳しい状況が見受けられます。また、インターネット上における誹謗中傷やプライバシー侵害、さらには被差別部落に関する不適切な情報の拡散といった問題も後を絶ちません。加えて、コロナ禍においては、人と人とのつながりや絆が分断されるという苦しい時期も経験しました。

このような状況の中、私たちは「人権の学びを止めない」を合言葉に、様々な方法で研修の機会を重ねてまいりました。「誰もが生まれてきてよかったと

思える社会の実現」は、人権について学び続けることによってこそ可能になると考えるからです。

今後それぞれの立場から、人権課題の解決に向けて模索し、考え、発信し続けることが重要であると考えます。

本日の研修会では、「佐賀県における人権教育・同和教育の歩みを踏まえて」と題し、本協議会の事務局長を8年間務められた野田和隆様にご講演いただきます。これまでの実践を振り返りながら、その思いや経験をお話しいただけるものと存じます。私たちはその学びを通して、今後求められる取り組みについて共に考えていきたいと思います。

最後になりますが、行政・教育・保育の現場において、一人一人の確かな認識と行動力を高め、実践につなげていくためには、私たち自身の行動が問われています。

「誰もが生まれてきてよかったと思える社会の実現」に向けて、今後とも一層の取り組みをお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

来賓祝辞(県教育委員会教育長 甲斐 直美 様)

佐賀県人権・同和教育研究協議会総会の開催を心よりお祝い申し上げます。長年にわたる取組に敬意を表するとともに、日頃より人権・同和教育の推

進にご尽力いただいている皆様に感謝申し上げます。社会の変化に伴い人権課題も多様化する中、学び続けることが重要です。子どもたちが差別に気づき行動できる力を育むため、人権教育の一層の推進を期待いたします。

来賓祝辞(メッセージ)【部落解放同盟佐賀県連合会 執行委員長】

第57回総会の開催を心よりお祝い申し上げます。日頃より部落差別をはじめ、あらゆる差別の撤廃に尽力されている皆様に敬意を表します。「部落差別解消推進法」制定から10年が経過する中、インターネット上の差別など課題は依然として深刻であり、法整備と継続的な取組の重要性が高まっています。人権教育と啓発を通して、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、今後も共に歩んでいく決意です。

第57回 佐同教 総会【議事】

- (1) 2025年度事業報告および会計
決算報告・監査報告に関する件
- (2) 2025年度の総括に関する件
- (3) 会則改正に関する研
- (4) 2026年度役員選出に関する件
・新旧役員および顧問・事務局等紹介
- (5) 2026年度の研究課題に関する件
- (6) 2026年度事業計画および会計
予算に関する件
- (7) その他

新旧役員が一堂に会して



【研究のビジョン2026】

具体的な課題において、「人権啓発(社会教育)」「人権教育」「人権のまちづくり」の三点を説明しました。

【総会における参加者アンケート】

★議案がよく整理されており、特に「研究のビジョン2026」で人権教育を「環境づくり・人間関係づくり・学習活動づくり」の3つの柱として示していただいた点が分かりやすかったです。決算・予算や会則改正についても丁寧な説明があり、本会の運営が健全に行われていることが伝わってきました。特別支援学校の立場からも、校種を越えて学びをつないでいく視点を持ち帰りたいと感じました。

★人権について、改めて考えました。特に職員に対して、管理職として当然だと思って話した事が相手にとってどうだったか、反省しました。改めて誰もが尊重される存在だという事を考えました。

★昨年度の九同教の開催を始め、たくさんの方の学びの機会をいただきありがとうございました。本校の職員

も様々な研修で得たことを日々の教育活動に活かそうとがんばっていますが、まだまだ追いつかないところもあります。人権について語り合う職場づくりに努めます。

日程・提案する時間の長短、集合の必要性の有無等については昨年度までと同様、様々な意見がありましたがおおむね肯定的でした。

内容(決算、総括、研究課題、事業計画等)についても様々な意見がありましたが、おおむね好評評価でした。ありがとうございます。

【講演「伝えておかねばならないこと」

佐賀県における人権教育・同和教育の歩みをふまえて」

講師・野田 和隆さん

(佐同教事務局書記・前事務局長)

◎【同和教育推進教員として】

同和教育推進教員として、最初にいただいた言葉が、「どうせあんたもこしかけやろもん」でした。この言葉には、人権・同和教育を他人事ではなく、本気で取り組んでほしいということの裏返しのように感じました。その中で野田さんは校内では同和教育の授業実践や人権教室、職員研修などに取り組まれました。また、校外では、解放学習会、同和問題地区別懇談会などに精力的に取り組まれました。

◎【部落解放運動、同和教育の歩み】

野田さんは、差別事象が発生するたびに糾弾学習会へ参加してこられました。その現場を経験する中で、差別をなくしたい



と願う教職員と、差別によって深く傷ついてこれた当事者との間に、差別に対する認識について大きな隔たりがあることを痛感されたそうです。そして、「教職員が本気で人権教育に取り組める環境をつくりたい」と考え、委員長

に繰り返し、相談された結果、学校現場が主体的に差別事象へ向き合う、新たな仕組みづくりになげられたことが紹介されました。

同和教育の歴史についても触れました。

「今日も机にあの子がいない」という言葉に象徴されるように、差別や貧困によって学校へ通えない子どもたちの現実が同和教育の出発点でした。

差別糾弾闘争の成果として、義務教育教科書の無償化、統一応募用紙などが実現しました。そのような歩みの中、2004年度に県同教(学校教育)と社同研(社会教育)が一つになり、が佐賀県人権・同和教育研究協議会(佐同教)が結成されました。

◎「人権に関する学びは、自分自身を幸せにし、そして、差別をなくすことにつながる」



県内において、賤称語の使用をはじめとする差別事象が発生しています。また戸籍の不正取得(プライム事件)、「全国部落調査」復刻出版事件(佐賀メルカリ事件)が大きく報道されました。佐同教としても、この間、様々な取組を進めているにも拘らず差別事象は起こっており、その課題を克服するためのポイントを、3点示されました。

- ① 自分のために学ぶ人権学習へ
- ② 自分が考え、答えを見出す学習へ

③ 被差別の立場にある人が胸を張れる学習へ
終わりにには、「人権に関する学びは、自分自身を幸せにし、差別をなくすことにもつながる」と話され、差別を許さない風土づくりと人権・同和教育の充実を求められました。

(講話内容の抜粋・要約)

★【研修会における参加者アンケートより】

★ 自分ごとという言葉がとても心に響きました。実践していきたいと思います。長い期間事務局や役員で人権教育に携わっていただき、感謝します。歴史や経緯がすべて、勉強になりました。事例提供があり、わかりやすかったです。

★ 人権・同和教育のあゆみがよく理解できました。今では、当たり前の権利が、たくさんの方々の方々の努力によって獲得され、すべての人々の幸せに繋がっていることがわかり、改めて人権・同和教育の大切さを痛感させられました。また、差別に対して自分ごと、当事者意識を持つ必要があると強く感じました。

★ 佐賀県における人権教育・同和教育の歩みを振り返って、改めて学校現場における人権・同和教育の在り方について考える機会となりました。若い先生方が増える中、継続的な研修会の必要性を強く感じました。自分事として取り組めるような職場環境づくりに努めてまいります。ありがとうございました。

★ 長年、人権・同和教育に携わってこられた野田先生のお話を拝聴し、私自身本気で差別解消、

人権尊重の意識を高め、学び続けていかなければと強く思いました。そして、同じ思いを所属職員と共にもち、自分ごととして日々の教育実践の中で磨いていかなければと思いました。本当にありがとうございました。多数派が理解行動していかないといけません！

★ 本日の研修では、「伝えておかななくてはならないこと」をテーマに、佐賀県における人権・同和教育の歩みについて学んだ。野田さんのこれまでの実践や熱い言葉から、「自分のために学ぶ人権学習へ」「自分が考え、答えを見出す学習へ」「被差別の立場にある人が胸を張れる学習へ」という思いの大切さを改めて感じた。また、「人権に関する学びは、自分自身を幸せにし、そして、差別をなくすことにつながる」という言葉を、自分事として受け止め、今後の実践につなげていきたい。

★【佐同教事務局・事務局より】

研修会の内容についてはおおむね好評で、人権・同和教育を推進していきたいという意見が多くありました。さらに、「管理職として学びになった、話を職員にも広げたい」というご意見、「野田さんの熱くて真剣な思いをさらに聴きたい。もっと時間をとって聞きたかった」という意見もありました。

佐賀県人権・同和教育研究協議会として、様々な人権課題について、あらゆる世代に「学びと行動」を促す取組をめざしていきます。今後ともご協力、ご支援の程、よろしく願っています。

2026年度佐賀県人権・同和教育研究協議会役員等

同和教育啓発強調月間について

（佐賀県県民環境部人権・同和対策課より）

佐賀県では、同和問題の真の解決をめざして、県民一人ひとりの理解と協力を得るために、毎年8月を「同和対策啓発強調月間」として設定しました。この期間に県、市町による各種の啓発行事を集中的に実施することにより、同和問題に対する県民の理解を得て、県民挙げて差別をなくす運動を展開します。下記の二次元コードにより、関係法律や県条例等の周知にご協力をお願いします。



部落差別解消推進法



人権条例



人権施策基本方針

～今後、佐同教の主催する主要な研修会～

- ・ 8月3日（月）～9月25日（金）
研究大会全体会（オンデマンド配信）
- ・ 10月27日（火）研究大会分科会（伊万里・有田）
- ・ 12月1日（火）実践交流会Ⅰ（会場未定）
- ・ 12月8日（火）～1月8日（金）
人権保育研究集会（オンデマンド配信）
- ・ 1月15日（金）実践交流会Ⅱ（会場未定）

佐同教ホームページへの
アクセスは二次元コード⇒
または URL ↓

<https://sadoukyo.blue/>